

♥♥会員の声♥♥

◆私は東京在住ですが、自然のなかで読書できるこの環境に感激。おはなし会を聴きがてらまた訪れたいです。◆大人の本を借りますが、そのなかに必ず子どもの本も入れます。子ども時代に帰った気がして懐かしいです。◆孫に借ります。小さい赤ちゃん絵本がもっとあればいいと思います。◆大きい子むけの子どもの本のなかには、まあ今の子は、と驚く内容もありますが、いろいろ考えさせてくれます。若い子育て中のおかあさんに読んでほしいですね。

☆☆文庫あれこれ☆☆

◇今年の夏は、夏だ!と感じる強烈な陽射しも青空に湧く入道雲もあまり見ることなく、雨ばかり、と思ったのは私だけでしょうか? それでも10日ぶりに来て、木立をわたってゆく風が肌に冷たく、宵闇のなかでの虫たちのにぎやかな音楽会に、季節が移り行くのを感じます。◇文庫だより1号をお届けします。はじめてで、なかなかうまくできませんでした。だんだんにみなさんにも参加していただいて、本を通してみなさんとの楽しい交流の場にしてゆきたいと思っています。◇大人の本も子どもの本もふえ、併せて3000冊を越えました。◇準備も整わず見切り発車の開館でしたので、未だに本の登録作業をやっていますが、嬉しいことに、本にブッカーかけたり、貸出を手伝うボランティアさんができました!◇本年中には、書架の並びもわかりやすく、蔵書リストも提示できるようにしたいと思っています。◇夏の期間は、たびたび開館し、多くの会員(大人も子どもも)がたくさん本を読まれたと思います。◇これからは通常の、月に2日(連続土日)開館のみとなりますので、返却日(=開館日)を守ってどんどん読書をしてください。(西村)

(5 P)

♥♥イベントのお知らせ♥♥

秋の夜長のおはなし会

日時: 10月15日(日)午後7時~8時半

場所: 沙羅の樹文庫

参加費: 今回無料(会員でない方は300円)

定員: 30名ほど

★夜の会ですので、大人のためのおはなし会です。もちろん、高学年以上でお家の方と一緒にOKです。★語り手はNPOまちだ語り手の会の方々6名。★プログラムは、色々な国の昔話と、「ふしぎなお客」「月のひかりでさらさっしやい」等、ちょっとゾクとする不思議なお話です。★熱い飲み物とお菓子ができます。★夕食後のひととき、お誘いあわせのうえ、ぜひおいでください。秋の一夜をごいっしょに楽しみましょう。★床暖房がありますが、当日の温度にあわせてお寒くない服装でおいでください。

☆☆今後の開館スケジュール☆☆

◇文庫の時間は土曜日は午後2時~5時

日曜日は午前10時~午後3時

◇毎月日曜には、子どものおはなし会があります(原則10:00~10:30)。

◆10月は、おはなし会があるため、14日、15日(変則第2の土日)です。

◆11月は、18、19日(第3土日)です。

◆12月は、16、17日(第3土日)で、日曜日には、クリスマスお楽しみお話を午後開催予定です。

(6 P)

沙羅の樹文庫だより

No. 1

目次

1 ページ・・・表紙

2~4 ページ・・・子どもの本と大人の本の紹介・書評

5~6 ページ・・・会員の声・沙羅の樹文庫のページ

(お知らせ・予定など)

秋の風が立ち、

沙羅の樹文庫が開館して2ヶ月経ちました。

会員も60名を超えました。

たくさんの方が毎回、何冊も借りて行かれます。

とても嬉しいことです。

これからも少しずつですが、

みなさんが読みたい

いろいろな本を揃えたいと思っています。

ぜひリクエストしてください。

(1P)

子どもの本—絵本の棚から次のステップへ

～～～文庫にある幼年童話の棚から～～～

♥幼児～低学年では、自分で字が読めるようになって、絵本が大好き。そして、おかあさん、おとうさんに読んでもらうのがとてもうれしい。親子で、また、おじいちゃんおばあちゃんと、絵本の名残りを感じながら、幼年童話をいっしょに読んでみませんか♥

❖おばけのジョージーおおてがら❖

はずかしがりやの小さなおばけが、動物たちとどろぼうをやっつけるお話。絵本『おばけのジョージー』の姉妹編です。秋の夜、寝る前に。おとなが読んで、続きを子どもが、と。静かで心があたたかくのびやかにになります。(ロバート・ブライト作/絵 なかがわちひろ訳 徳間書店刊)

❖ふたりはいっしょ❖

(あお)かえるくんとがま(がえる)くんの友情を描いた短いお話がいっぱい。人間の生活の原点というか、幼い子の発想はかくあらんということ、昔を忘れた大人たちに教えてくれます。私の子どもたちも大好きでした。『ふたりはいつも』『ふたりはきょうも』が続編であります。(アーノルド・ローベル作/絵 三木卓訳 文化出版局刊)

❖ラベンダーのくつ❖

昔話仕立ての短いお話集です。この作者は小さい人がけでなく、大きい人向けにもたくさん書いていますが、自然の中で暮らす楽しさ、大変さを交えた愛情溢れるお話満載です。これが読み終わったら、『こぎつねルーファスのぼうけん』『くつなおしの店』を読んでみてください。(アリソン・アトリー作 松野正子訳 福音館書店刊)

♥本棚からお気に入りを見つけましょう♥

(2 P)

大人の本・紹介

★会員から会員へ・おすすめの一冊★

『神も仏もありませぬ』(佐野洋子著/筑摩書房刊)

絵本『100万回生きたねこ』で知られる童話作家のエッセイです。

60代で北軽井沢に住み、自然の恵みの中で、地元の人たちとも関わりながらの生活が、さっぱりとした語り口で気持ちいい。

「毎日自然を見ていたら、もうめずらしくも面白くもなくなるのかも知れないと思っていたら、全然違うのだ。」 「生まれて来ない人はいるが、死なない人はこの世に一人もいない。」 「“私、もう充分生きたわ。いつお迎えが来てもいい。でも今日でなくてもいいの”と、97歳の友だちのお母さんが言った。」・・・などなど、共感することばがいっぱいです。

ここ・伊豆高原で、四季それぞれの自然を楽しみながら生活しているあなたに、ぜひおすすめの一冊です。(中西景子)

.....

『水の家族』(丸山健二著/文藝春秋刊)

著者・丸山健二の本は一冊も多分読んだことがなく(と言うのは、最近忘れっぽくなっている)、タイトルに惹かれて選んだのですが、まず、書き出しの「ただならぬ水の気配がする」という文に引きつけられました。タイトルから、私はロマンチックな少女趣味的な物語の展開を想像していたのですが、でも、読み進んでゆくと、主人公はすでに死者になっていて、死んでいる主人公から見た自分の家族(祖父、父母、兄夫婦、弟、妹)を描いているのです。

(3 P)

このような物語は、今迄読んだことがなかったと思います。

主人公は、実の妹と問題を起こして家出をし、いつしか死んでしまうのですが、主人公が起こした事件は、家族のそれぞれに大きな波紋を起し、消えることはありません。けれども、私は特に、祖父、父、母の生き方に静かな感動を憶えました。深く傷つきながらも淡々と、川の水が海へ流れて行くが如く生きている、そんな生き方がいいな、と思いました。彼岸から、主人公はそんな祖父たちをみて救われるのです。(森川理恵)

.....

❖❖新刊入りしましたコーナー❖❖大人の本

●八月の路上に捨てる

(伊藤たかみ著/文藝春秋/2006.8刊)

だい135芥川賞受賞作

●まほろ駅前多田便利軒

(三浦しをん著/文藝春秋/2006.8刊)

第135回直木賞受賞作

●散るぞ悲しき

(梯久美子著/新潮社/刊)

硫黄島総指揮官・栗林・の人物伝。

●どちらでもいい

(アゴタ・クリストフ著/早川書房/2006.9)

●カフカの友と20の物語

(アイザック・シンガー著/彩流社/2006.6)

★新しい本+新刊コーナーは図書コーナー(階段あがってすぐ右の棚(昔話書架の真裏)ですので、チェックチェック!

★子どもの本、絵本も新しく入ってますよ~!
新刊コーナーチェックチェック!

(4 P)